

平成26年度 消防長「政策宣言」中間報告

消防長 竹谷 進

○ 平成26年度重要事業

事業名	住宅火災による死傷者及び火災件数の減少
目 標	<p>地域や関係団体等と連携して、住宅用火災警報器の設置を推進するとともに設置の義務化から6年目となることから電池切れに関する啓発を行い、住宅火災による死傷者ゼロを目指します。</p> <p>また、事業所に対しては、危険物施設への立入検査を重点とした防火対策と自衛消防隊への訓練指導により、発災時における被害の軽減を目指します。</p>
進捗状況	<p>今年、火災件数及び焼損棟数の大幅な減少とともに死者は無く、負傷者も半減しています。住宅用火災警報器の設置推進については、重点促進箇所を決めて設置促進を図っています。</p>
今後の対応	<p>引き続き住宅用火災警報器の設置推進と啓発を行うとともに防火活動に努めます。また、事業所への防火意識の高揚と訓練指導については機会あるごとに徹底するよう努めます。</p>

事業名	救命率の向上
目 標	<p>年々増加する救急出動に対し、119番受理時に必要に応じて口頭指導を確実にを行い、救急救命士による高度な救命処置と症状に応じた病院選定に努め、病院収容までの時間短縮を図ります。</p> <p>また、AED設置事業所を対象とした救命講習会を開催して、まちかどAED制度の拡充と救命率の向上を目指します。</p>
進捗状況	<p>病院収容時間について極端な短縮結果は出ていないが、口頭指導が必要と判断される事案については確実に行っていきます。AEDの救命講習会開催件数も確実に増えてきています。</p>
今後の対応	<p>救急隊のレベルアップとともに、119番の受理から出場までの時間短縮を図り、病院への収容時間の短縮につなげます。</p>

事業名	消防施設及び設備の整備
目 標	<p>迅速・的確な消防・救急及び救助活動を実現するため、2ヶ年で消防・救急無線をアナログからデジタルへの変換工事に合わせて指令台の改修を行い、クリアな音声通信や秘匿性の向上のもと、指令・現場情報の伝達機能を強化するとともに、救助工作車や救急車等を更新整備します。</p>
進捗状況	<p>来年の12月完工のデジタル化工事契約及び救助工作車の更新に係る契約を結び、順調に推移しています。また、救急車は更新整備し、10月15日から運用開始しています。</p>
今後の対応	<p>今年度中に車両の更新を図って運用を開始するとともに、他の車両等についても維持点検を行い緊急出動に備えます。</p>